

2025年7月10日

## ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会

ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校

校長 浅賀寿美

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価委員会は、2024年度（令和6年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2025年6月24日（火） 13:00～15:30

2. 場所：ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校（オンライン）

3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大 (株式会社 sline 取締役)  
(日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長)

宮腰 大司 (有限会社HAIR GUEST 代表取締役)

平山 浩篤 (学校法人ミスパリ学園事務局長)

須賀谷 映子 (N P O 法人スパ・ウェルネス協会 教育委員長)

東 千晶 (ミス・パリ・グループ 人事部 部長)

越川 治枝 (ミス・パリ・グループ 教育部 部長)

事務局

浅賀 寿美 (ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 校長)

榎本 紋子 (ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 副校長)

荒木 弘子 (ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 教育課 課長)

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

①学生アンケートにおける改善点

【現状】

大宮校では、在校生に対し、年に2回（前期・後期）授業アンケートを実施。アンケート分析によって、授業や教員の指導内容等について学生の満足度を図り、これを基に課題の掘り起こし及び改善に務めている。

2024年度におけるアンケートの実施方法・分析結果は以下の通り。

〔実施方法〕全在校生対象。無記名式。10項目3段階評価及び記述式のコメントを求める。

2024年度変更点：記述式には昨年度までの意見要望に加え、学生自身のモチベーションアップ方法を記すよう改めた。

〔実施時期〕 前期：2024年7月19日、後期：2025年3月11日

〔分析結果〕 年間を通してトータルビューティ学科、美容学科ともに、10項目ほぼ全てで9割を超える満足度となった。このことから、本校の教育活動について、学生より一定の理解と満足が得られていると評価する。但し、一部教員の評価に8割台も見られた為、年度初めに教員一人ひとりと面談を行い、学生意見を今年度の教育指導に反映するよう促した。

記述式アンケートの高評価としては、「先生と友人に恵まれ成長できた」「入学して自分が明るくなり人生が楽しくなった」等のコメント多数みられ、教員の励みになった。他方、学校・教員への要望としては、休憩時間の取り方や施設設備についての要望が複数挙がった。授業の進め方を工夫しながら学生の意見に一つ一つ向き合っている。

また、学生自身のモチベーションアップ方法を記してもらうことで、学生が意欲を低下させるタイミングや乗り越え方等から、学生指導のヒントを得ることができた。多くの学生は友人関係が良好であることが心の安定につながるため、年度初めにグループワークや、広く友人関係を持てる場づくりを設けた。これにより、現在は円滑なクラス運営を行うことができている。

このように、アンケートから得られる学生の声を積極的に学校運営に取り入れることで、今後も学生がより良く学べる学習環境を作りたい。

## ②自己評価結果

### 【現状】

開校より14年目を迎え、これまで整えてきた体制により安定した運営ができている。実際に進級率や各種資格取得率が向上しており、概ね良好な学校運営が出来ていると自己評価をしている。また、昨年度から開催している全体職員会議を継続することで、教育理念の浸透をするとともに意見交換することで、外部教員や非常勤教員も含め、教職員の一体感が増したことも評価点を上げる要因となった。今後も教職員が一丸となって更なる教育環境の整備に尽力していきたいと考えている。このことから今回の委員会では、本校の現状について学校関係者評価委員にご説明し、改善点を洗い出すとともに、改善アドバイス等をいただいた。

#### (1) 教育理念・目標について

本校の特色である「職業実践専門課程」の強化として、美容学科では株式会社ユーフォリアとの情報共有を年次計画に導入するとともに、新たな企業からの出張授業の依頼を予定している。また、トータルビューティ学科では、株式会社ミスパリとの連携を深め、教育部との合同授業や研修を年次計画に導入し、産学連携を強化している。

#### (2) 教育活動・学習成果について

教育活動の充実及び学習成果向上のため、全校的に学生一人一人の習熟度に合わせた個別指導に力を入れた。美容学科では常勤教員が教科課目担当教員資格を取得し、放課後の学習サポートに努めた。また、トータルビューティ学科では、2024年度にカリキュラム変更を行ったこと

で授業日数を減少させた。その差異分を補習日に充て、修得が遅れている学生の個別指導を行った。これらの取り組みによって、美容学科では美容国家試験全員合格という快挙を5年ぶりに達成した。更にトータルビューティ学科では、ビューティセラピスト試験の合格率アップ、パーソナルカラー優秀校として表彰される成果を挙げることができた。

(3) 教育環境について

OA機器の一部と災害時連絡ツールの新規導入を行い、これにより、学生が学びやすく安心して学校生活が送れるよう教育環境を整えた。今後整備する環境として、シャンプー台の台数増設やジェンダー対応設備について中長期的な計画を立て、重要度の高い順に、順次対応していく予定である。

(4) 受入募集について

定員数未達。要因として、オープンキャンパスや学校説明会参加のビジョンやスケジュールが明確ではなかったことが挙げられる。そこで今年度は、繰り返し来校したいと思われる魅力的なイベントを実施し、新規再来率の回復に尽力していく。更に希望者の多いメイク体験の体験内容見直しやエステティックの魅力を感じてもらえるイベントの企画を立案する。

③重点的に取り組む施策

学生アンケートや自己評価の結果から、2025年度の重点的な施策として次の2点を設定する。

I. トータルビューティ学科入学生の確保

エステティックはミスパリ学園の主軸をなす教育科目であり、学園創設にはエステティック産業の健全な普及を目指すという目的があった。この度、この原点に立ち返り、エステティックの普及活動に注力することによって、エステティックの魅力を広め、トータルビューティ学科の定員充足に繋げていきたい。高校生から人気のあるメイク分野希望の学生に対して、スキンケア観点からの重要性を説いていき入学へとつなげていきたい。更に延いては、エステティック産業の発展促進に寄与する存在を育成することを目指す。

II. 学生の多様性への対応

学生を取り巻く環境は年々多様化してきており、今後益々、学生一人一人に合わせた対応が求められるようになると思われる。練習日や面談日を年次計画化し、学生への個別指導を充実させることが学修成果や学生満足度を上げるための重要な鍵になると考える。しかし、その為には教職員の安定的確保が急務となる。関連企業の人材派遣会社との連携を強化しつつ、教員業務の効率化を図っていきたい。また、学生の多様化により、大人数から離れて過ごしたいとの要望も出ている事から、授業進め方や教室の使い方を見直し、学生がより過ごしやすい環境を整えるよう尽力していく。

**評価委員からの意見・アドバイス**

- 具体的なゴールを明確にすることが、学生のモチベーションを保っていくポイントになると考える。現場の先輩社員との接点を持つことも学生には良い刺激になるので積極的に機会を設けて欲しい。
- 就職内定者が内定を辞退することや入社後すぐに辞めてしまう事例が近年起きていている。職業実践校として現場経験のある先生が学生のフォローを続けて欲しい。
- 開校以来、教職員の大きな変動がなく年々積み重ねてきた施策が結果を出し、安定した学校運営が

できていると感じる。今後も継続的な改善を続けて欲しい。

- ・学生と教職員の距離が近いことが良い結果につながっていると思われる。学生から満足度が高い状況を発信する環境を整えることをお勧めする。

## 5. 総括

評価委員からは、課題はあるが安定した学校運営ができているとの評価をいただいた。学生アンケートでは学生の本音を拾うことで、運営側では気が付きにくい課題点を把握して教育活動に生かせている。このように一定の成果を出せるようになってきた点もあるが、学生の確保は依然課題として挙がっている。内々の満足にとどまらず、外部へ魅力を発信していくことが、入学生の確保につながると考える。仕事への意欲を持ち、長く現場で働き続けられる人材を育て、美容業界を牽引していく美のプロフェッショナルの育成に一層尽力していきたい。

以上